



増えている大腸がん 私は大丈夫って思っていますか？

大腸がんは、かつて日本では少ないがんとされてきましたが、戦後から1990年代までに急速に増加してきたがんの1つです。2001年には、新たに大腸がんになった患者数は毎年10万人を超えるようになっており、2020年には、胃がん、肺がんを抜き、男女をあわせた日本人のがん発生率は1位になると予測されています。

◎ 症状がないうちから受けることが重要 ～大腸がん検診で早期発見～

がん検診は、無症状の健康な人ががんにかかっているかどうか発見するために行われます。大腸がんは早期発見できれば、治癒の可能性が高いがんの一つです。ただし、大腸がんの初期ではほとんど自覚症状はみられません。ですから自覚症状のないうちから定期的に検診を行い、早期にがんを発見しようとするのが重要です。

まずは便潜血検査を!!

大腸がんの死亡率減少効果において十分な根拠がある検査として認められています。40歳以上の方は毎年定期的に検診を受けることが重要です。

一次検査

- 便潜血検査 ▶ 便内の大腸粘膜のがんによる出血をチェック
- ▶ 大腸がんのリスクがある人をふるいわけの役割(スクリーニング)があります

陽性 (+)

陰性 (-)

精密検査

大腸内視鏡検査

- ▶ 大腸の表面を直接観察し、形や深さを捉え、生検も可能
- ▶ モニターに映し出された大腸の中の映像をリアルタイムで観察します

注腸X線検査

- ▶ 腫瘍による大腸表面の凸凹や腸管の変形をチェック
- ▶ 大腸にバリウムを付着させ、X線写真を撮る検査です

異常あり

異常なし

治療

定期的に検診を受けましょう

※ 「陽性」と判断されて精密検査を受けない場合は大腸がんで死亡する危険が約5倍高くなります。「陽性」と判断されたら必ず精密検査を受けるようにしましょう。

当院、消化器外科では、精密検査と治療を迅速に行っております。



水戸赤十字病院

TEL : 029-233-5177

E-mail : mito@mitojrc.or.jp

